

全体	No.1
個別	01-01

平成27年度 [しまづくり戦略本部] 目標の成果

課名	新政策推進課
----	--------

No.	項目	地域循環システムの構築に向け検討を進めます
	1. 組織目標	
	【内容】	「自立するふるさとのしま 対馬」をキャッチフレーズに、「海」「森林」「国際ビジネス」「生ゴミ」「地域コミュニティ」「域学連携」の6つの循環を提唱し、地域資源を活用した産業振興と循環型社会の実現に向けて、平成26年度に作成した3箇年計画に基づいて、調査や検討を進めます。
	【指標】	<ul style="list-style-type: none"> ・推進本部会議の開催 2回 ・プロジェクト部会（10部会）の開催 随時 ・市民や議会への進捗状況報告 1回
	2. 実績（成果）	
		<ul style="list-style-type: none"> ○推進本部会議の開催：2回 ○プロジェクト部会（10部会）の開催 【海の循環】 <ul style="list-style-type: none"> ・海洋保護区設定と市場開設部会：1回 ・塩づくり部会：1回 【森林の循環】 <ul style="list-style-type: none"> ・森林資源循環活用部会：開催なし ・国際「水」ビジネス部会：1回 ・生物多様性保全と集落づくり・人づくり部会：1回 【国際ビジネスの循環】 <ul style="list-style-type: none"> ・森づくり（主伐）海外モデル住宅展示プレカット工場整備部会：1回 【生ゴミの循環】 <ul style="list-style-type: none"> ・生ゴミ回収、堆肥化、生産物の給食利用部会：2回 【地域コミュニティの循環】 <ul style="list-style-type: none"> ・健康指導とスポーツ振興部会：1回 ・地域見守り体制整備、地域バス運行部会：3回 【域学連携の循環】 <ul style="list-style-type: none"> ・域学連携による地域づくり部会：2回 ○市民や議会への進捗状況の報告 12月市議会定例会に報告
	3. 評価	○
		循環型社会の実現に向けて、部会において検討を進めました。
	4. 今後の展開	
		平成28年度が3箇年計画の最終年度であり、計画に沿った進捗を図ります。

全体	No.2
個別	01-02

平成27年度 [しまづくり戦略本部] 目標の成果

課名	新政策推進課
----	--------

No.	項目	域学連携による地域づくりを推進します
	1. 組織目標	
	<p>【内容】</p> <p>大学と地域が連携し、様々な地域課題の解決に向けた実践的な取り組みを進めたり、地域資源を活用した新たな産業や社会の枠組みを創出するなどし、地場産業や観光産業等の活性化を図るとともに、地域づくりを担う人材の育成にも努めます。</p> <p>【指標】</p> <p>①域学連携地域づくり実行委員会・作業部会の開催 ②学生実習の受入 ③学生の活動・滞在拠点の整備計画の作成 ④「対馬学フォーラム」の設立及び開催 ⑤こども対馬未来塾の開催</p>	
	2. 実績(成果)	
	<p>①域学連携地域づくり実行委員会・作業部会の開催 ・実行委員会 1回、作業部会(島内委員) 1回、作業部会(島外委員) 1回 ②学生実習等の受入 ・短期合宿「島おこし実践塾」 大学生18人、社会人2人、高校生14人 ・現場学「学生実習」 12プログラム、43人 ・学術研究 学術研究奨励補助研究6件、自由研究1件 ③域学連携活動・滞在拠点施設整備基本計画(素案)の作成 ④「対馬学フォーラム」の開催(平成27年12月13日、交流センター) ・特別報告:東京農大岡田早苗教授、豊小学校 ・ポスター発表:62件 ・来場者:約300名 ⑤こども対馬未来塾の開催 ・夏休み子ども寺子屋 開催地区:久和、内院、瀬、厳原、佐賀、佐須奈、比田勝 延べ52回、869人参加 ・学び舎つしま 3箇所、延べ142回、709人参加</p>	
	3. 評価	○
	平成26年度に策定した域学連携地域づくり推進計画に基づいて事業を順調に実施している。	
	4. 今後の展開	
	学生の受入プログラムを再構築することで域学連携事業を市民へ浸透させ、さらなる市民の参加も促していきます。	

全体	No.3
個別	01-03

平成27年度 [しまづくり戦略本部] 目標の成果

課名	新政策推進課
----	--------

No.	項目	様々な機関や業種が連携して産業の振興を目指します
	1. 組織目標	
	<p>【内容】</p> <p>事業者団体、金融機関、大学などの研究機関、行政、その他産業振興に携わる団体等で構成する「対馬市創業支援会議」において、創業を希望する方を多方面から総合的に支援し、産業振興と雇用の増加により地域の活性化を目指します。</p> <p>また、「対馬市異業種間連携交流協議会」においても、異業種間で課題等を共有しながら、連携して産業の振興策を検討していきます。</p> <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ワンストップ相談窓口（市役所）での相談受付：年20件 うち創業者の目標数：年9件 ○創業支援会議の開催 代表者会議2回、ワーキング部会4回 ○異業種間連携交流協議会の開催 3回 	
	2. 実績(成果)	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ワンストップ相談窓口（市役所）での相談受付 受付件数28件、うち創業者数2件 ○創業支援会議の開催 代表者会議1回、ワーキング部会2回 ○創業等支援事業補助金による支援 補助金交付件数 8件、5,147千円 ○地域資源活用セミナーの開催 1回 ○異業種間連携交流協議会の開催 2回 	
	3. 評価	△
	<p>創業や新商品開発等の相談は増加傾向にあるが、創業は2件と少なくまた新規の雇用も発生していない。</p>	
	4. 今後の展開	
	<p>ワンストップ相談窓口の啓発等により、創業希望者の掘り起こしをしながら、創業支援会議で支援し、創業につなげます。</p> <p>また、引き続き異業種間連携交流協議会においても、産業の振興策について検討を進めます。</p>	

全体	No. 4
個別	01-04

平成27年度 [しまづくり戦略本部] 目標の成果

課名	新政策推進課
----	--------

No.	項目	情報連携システムを構築します
	1. 組織目標	
	<p>【内容】</p> <p>市役所内での情報共有及び市民への情報発信についてマニュアルを作成し、職員への説明会を行い周知徹底することで、より見える市政を目指します。</p> <p>【指標】</p> <p>①情報連携マニュアルの作成 担当者会議の開催 2回</p> <p>②職員説明会の開催</p> <p>③地域への情報発信システムの検討 担当者会議の開催 2回</p>	
	2. 実績(成果)	
	<p>①情報連携マニュアルの作成：作成できませんでした。</p> <p>②職員説明会の開催：実施していません。</p> <p>③地域への情報発信システムの検討：実施していません。</p>	
	3. 評価	×
	<p>方向性（テレビ会議、情報連携窓口の統一などの構築）が見いだせなかったため、事業の進捗を図ることができませんでした。</p>	
	4. 今後の展開	
	<p>市役所の内部の情報共有の徹底と、効果的な情報の発信・運用を行うための検討を行います。</p>	

全体	No. 5
個別	01-05

平成27年度 [しまづくり戦略本部] 目標の成果

課名	新政策推進課
----	--------

No.	項目	対馬3高校の魅力化を推進します
	1. 組織目標	
	<p>【内容】 市と高等学校とが連携・協働し、対馬3高校の維持・存続を図るため、高校の魅力化を推進します。</p> <p>【指標】 ①対馬市高校魅力化推進懇話会の開催 懇話会2回、ワーキンググループ1回 ②魅力化に関する地域意見交換会の開催（上・中・下3回） ③対馬3高校魅力化構想の策定 ④島おこし協働隊や域学連携事業による高校魅力化サポート 学び舎つしま26回、島おこし実践塾への高校生受入、総合学習支援 ⑤3高校の情報発信支援（広報つしま連載掲載） ⑥3高校への経済及び交通支援策等の検討 ⑦高校魅力化先進地視察</p>	
	2. 実績（成果）	
	<p>①対馬市高校魅力化推進懇話会の開催 懇話会1回 ②対馬3高校魅力化構想の策定：素案作成まで ③島おこし協働隊や域学連携事業による高校魅力化サポート 学び舎つしま154回、島おこし実践塾への高校生受入、総合学習支援</p>	
	3. 評価	△
	<p>高校魅力化構想の素案を作成したものの、県・高校側との意見調整が行えず、策定までに至りませんでした。</p>	
	4. 今後の展開	
	<p>平成28年度から、長崎県が主体となり高校魅力化の推進（離島地区小規模校の魅力化「アイランド・チャレンジ事業」）を図るので、対馬市としても積極的に関わりを持ちます。</p>	

全体	No.6
個別	01-06

平成27年度 [しまづくり戦略本部] 目標の成果

課名	未来創造・交通政策課
----	------------

No.	項目	航空運賃低廉化に向けた実証実験事業を取り組みます。
	1. 組織目標	
	【内容】	対馬の活性化対策の1つとして航空運賃低廉化制度創設を国に求めていくためにも、島外利用者（島民も利用は可能）を対象とした運賃低廉化モデル事業を実施します。
	【指標】	<ul style="list-style-type: none"> ・実証実験期間 3ヶ月間 ・期間中の旅客者数 例年比5%増（500人/月）
	2. 実績（成果）	<p>航空運賃低廉化の実証実験は、全日本空輸のご協力を得て、第1弾として9月～11月までの3ヶ月間、第2弾として2月～3月までの約2ヶ月間実施することができました。</p> <p>期間中の飛行機利用者としましては、73,986人で例年比▲2.9%（▲2,201人）でした。</p>
	3. 評価	△
		<p>実証実験期間中の飛行機利用者は2,200人程度減少したものの、この原因は、同時期に原油価格が下がり、ジェットフォイルの運賃に加算されている燃油サーチャージが0円となり、島民が対馬-博多間を往復で利用した場合9,500円（島民割引3DAY利用の場合）と前年よりも4,200円安く利用できることから、多くの島民が飛行機からジェットフォイルへ流れたと考えられます。</p> <p>このため、ジェットフォイルは期間中8,500人程度増加しております。</p> <p>以上のことから、利用者数は目標を達成することはできなかったものの、一定の効果はあったものと考えます。</p>
	4. 今後の展開	<p>「有人国境離島地域の保全及び特定有人国境離島地域に係る地域社会の維持に関する特別措置法」が可決されたことから、今回の実証実験の結果を検証し、観光客が対馬に来やすい航空運賃の設定となるよう、国等に求めて行きます。</p>